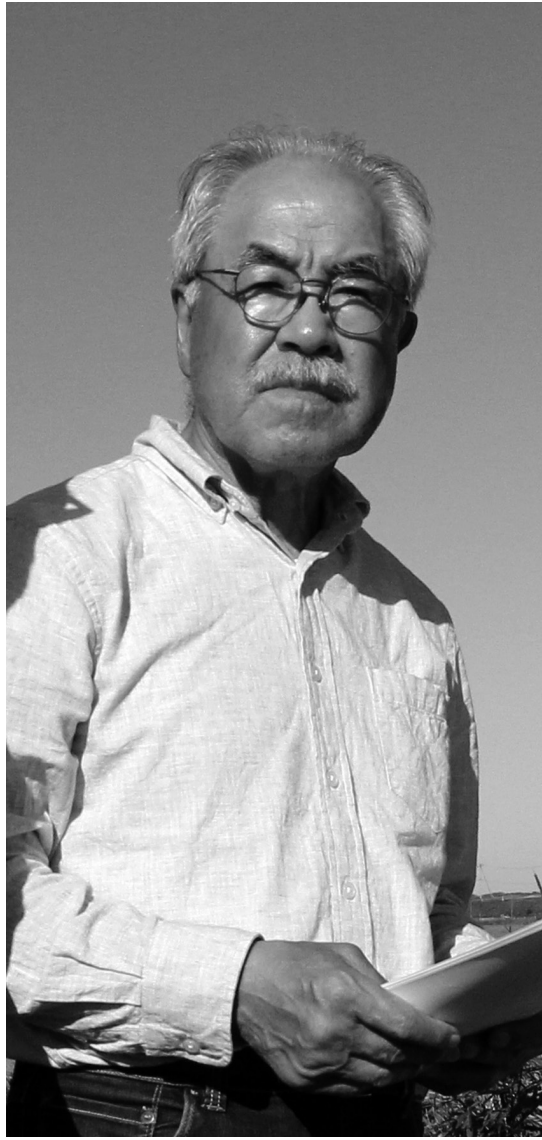


故差間正樹さんを悼む



差間正樹・ラポロアイヌネイション会長が2024年2月6日、地元の浦幌町内で亡くなりました。73歳でした。2月18日、北海道クリスチャンセンター（札幌）で開いた「つながろう、たたかう世界の先住民！～国際シンポジウム『先住権としての川でサケを獲る権利』報告会」（ラポロアイヌネイション主催、北海道大学先住民・文化的多様性研究グローバルステーション、北大開示文書研究会共催）の参加者たちが、故人を惜しみ、思い出を語り合いました。



Utspano uoupekare 互いに支え合う 葛野辰次郎『キムスポV』より

北大開示文書研究会
ニ ュ ー ズ レ タ ー

2024年4月18日発行

36

いにしえより 託された真実の火を灯すアイヌ 正樹

スピーチ 宇梶静江

3年ぐらい前だったと思います。白老から4〜5人で、正樹さんをお訪ねしました。ジェフ先生もいたかな？

その時に私、正樹さんに、「札幌の北大の……」と言いかけたんです。そして正樹さんが「札幌の北大のキャンパスにチセを建てて、そこで自分は火を灯してカムイノミします」と。私、そのお声を聞いた時に、「ああ、私は

この人に託そう」と。ですから私は一言も申しませんでした。感動しましたね。それで「いにしえより 託された真実の火を灯すアイヌ 正樹」って、書いてやったんです。それが彼に返す言葉のすべてかなと思って。それでお電話しました。寡黙な人です、あの方は、すごく。お電話でも、なかなか饒舌ではなくてね。私も遠慮しながら会話して。「あなたにこの言葉をプレゼントしたい」と言いましたら、「あ

りがとうございます」って。大した対話もなく、ですけども、対話じゃないんですね。彼との交流というのは、たくさん、心の中で、たくさん思っている、話をしているわけですね。そんな人でした。

去年の秋、そのちょっと前に会った時かな、「差間さん、すいませんけど、姉弟になってもえませんか」と言いました。奥さまもいらして、「ああ」と言ってくれまして、それで差間

さんとハグしたんです。あの方と私は、たくさんしゃべってはおりません。でも、気持ちの中で、心の中では、たくさんおしゃべりしてきたと思っています。その方を突然、失いました。

私も91になるんですけども、幻影っていうのは、夜、出るものだと思っています。私はこのあいだ、くたびれて横になっていたら、このくらいの位置から、差間さんが、私の顔、目を直視して、何分間って言ったたら大げさで

身をもって先住権を主張した 差間さんに敬意を表します

スピーチ 貝澤耕一

すけど、何秒か、正視しました。私はそういう不思議なことがある時に、他人さまに言ったらまた「呆けばばあ」と言われるけど、ズーっと子どもの時から信じてくれている娘に、「お姉ちゃん、このごろ昼間でも、お母さん、幽霊を見るんだけど、信じる？」と言ったら、「お母さん、信じるわよ」って。それを娘がいつも聞いてくれる。それで、その日かその翌日に、差間さんが逝ったことをお聞きしました。差間さんは会いに来てくれたのかな、このおばあさんに。あんまり頼りにもならないし、あんまり良いこともしてないのに、お別れに来てくれたのかな、って。もう91だから「認知症でしょう」って言われたら「そうです」って言うかも知れませんが、たとえそうであっても、ひとこと述べたいなと思いました。

差間さん、これ以上言えませんが、ね、じゃあね、ご冥福を祈ります。ありがとうございます。

私が差間さんに会ったのは、何年前か前なんですよね。シャケを迎える儀式をやるという噂を聞いて、うちから3時間近くかかるんですけど、「参加してみたいな」と思って行っただけが最初でした。

みなさんもご存じのように、穏やかで、にやかな顔をして迎えてくれたんです。そういう経験がみなさん、あると思うんです。差間さんのあの穏やかさ、にこやかさ、なんかこう歓迎されているように自分は感じました。それから始まって、何回か邪魔して。

北見紋別でも会いました。その時は若い人と一緒に、7、8人でわざわざ北見紋別の畠山敏さんのところへ来てたんです。

私は畠山さんとはだいぶ前から交流を持っていました。「シャケを獲るのはわれわれアイヌの権利なんだ」と。それで行政や警察の前で堂々と舟を出してシャケを獲っている。その後、私は「これ、裁判になればいいな」と思っただんですけど、検察庁は起訴しませんでした。裁判になったら困るから、な

んです。裁判になったら、こりゃいいな、と思ったんですけど、残念ながら裁判にはなりませんでした。

つまり、アイヌに対する漁業権や何の点で、日本政府は、非を持っているんです。もしも正式に裁判を起したら国が負ける、と。それを国は分かっている。畠山さんが刺し網でシャケを獲っている（藻鱈川に）、振興局も来ていました、警察も来ていました。けれど、一切「犯罪」にならないんです。「（検察が事件を起訴）してくれたらいいな」と思っただけです。そうしたらアイヌの権利を裁判で訴えることができるから、と思っただけです。でも残念ながらそれは実現しませんでした。

でも、それを畠山さんと同じように、差間さんは、アイヌの権利として、自分たちの主張を通すためにやっている。私はアイヌとして、みんな見習ってほしいな、と。アイヌがみんなやれば怖くないです。そうすると日本政府は認めなきゃならない。いかに日本政府は、先住民族、私たちの先住権を無視しているか、その証です。これをなんとか覆さない限り、私たちアイヌ

民族は本当の権利にたどりつかないと思います。

それを身をもって表してくれた差間さんに、敬意を表します。

本当に強い人だった

スピーチ 沖津翼



「浦幌に行ったら差間さんと話してみたい」と思っていたんですけど、（差間さんも映像に出てましたけど、（差間さんは）記者会見の時とか、すごい厳しい顔をして、はっきり言う。「強いアイヌだなあ」「このリーダーにぜひ会って話してみたいな」って思ってた。それで2019年8月のイチャルパに行ったら、いま耕一さんが言われたように、すごい穏やかな感じで迎えてくれて。すごく静かで、多くを語らない。だからこつちからいろいろ質問したことがあったんですね。「どうだったんですか、差間さん？」って。それに対して、とつとつと返答くださるんですけど、特に話がふくらんで、というよりはなくて。だから、あんまりお話をする人じゃないんだなあ、と思っ

て、それで差間さんの人柄が分かって。同時に、だけど、ふだん物静かなんだけど、アイヌの権利のこと、遺骨に始まって、サケを獲る権利に対する姿勢も、本当に頑として、「一人でも私は動かない」という姿勢を貫ける、本当に強い人だったな、というふうに思います。私は、何年前から、「他のアイヌたちと連帯してやっていかな

きゃならない」と思っていて、もちろん浦幌の仲間のみんなにもそんな話をしていた時に、これ印象的だったので覚えてるんですけど、そういう話題を出した時に、正樹さんは「それはいいと思うんですけど、私は自分の地元の権利を取り戻したい」と。ものごとを大きくしないで、自分たちの目の前の権利に集中することが大事だ、というようなことをおっしゃったんですね。それを聞いて「すごいな」と思ってたんですね。「この人、本当にアイヌだ」と思ったんですね。アイヌって、昔の古い時代のコタン社会、コミュニティをつくっていたアイヌのリーダーってのは、自分たちの家族、自分たちのコタンの利益を守ることに本当に意識を持っていたと思うんですね。歴史的にそれがあって、決して「仲良しよし」するのがアイヌの民族性じゃないんですね。アイヌってのは基本的に独立した、自立自尊の精神が強い民族なんです。だから余計なことはいらない、っていう決断ができることが、大きな強みなんです。それを体現している人だなあと思ってる。話の流れで差間さんとそういうやりとりをしていて、本当にいいリーダーがこのコタンにいるんだなああって、すごい安心した



正樹さんの遺志を引き継いで闘って行く

スピーチ 差間啓全 ひろまさ

きょうは、私たちの会長、故・差間正樹のために、しのぶ会を開催していただき、ほんとうにありがとうございます。ありがとうございました。また、葬儀の時には、過分なるご厚志^{こうし}をたまわり、ありがとうございました。

正樹さんは、若いときは、かなり気性の荒い人で、地域でもトラブルを起こしたり、ケンカも絶えなかつたんですよ。このアイヌの活動をするとともに、きょうのさきほどの映

像、亡くなる半年ほど前の東京での記者会見での表情を見ても分かるように、やわらかな顔になり、きっとこれは、ここにいるみなさまから、また今まで協力してくれたアイヌの関係者や、北大開示文書研究会のみなさんがたが、正樹さんを育ててくれて、どんどん、私たちの活動を、一歩後ろに下がったところから見守ってくれる、そんな存在になっていました。

この先住権の裁判で、私たちは正樹さんの遺志を引き継いで闘ってい

かなければなりません。私も人前でこのようにあいさつするっていうのは、本当に苦痛で恥ずかしく、しかながら、現実として逃げることはできない。私が、正樹さんの代わりに、このラポロアイヌネイションを担って、それが正樹さんへの恩返し、供養につながるんじゃないかと思っています。

未熟な私たちではありますが、いま以上にご指導のほど、よろしくお願ひします。本日はありがとうございます。

ウタツパノ
ウオウペカレ

Utaspano uoupekare 互いに支え合う 葛野辰次郎『キムスポV』より
北大開示文書研究会ニュースレター No.36 2024年4月18日
編集・発行 北大開示文書研究会
共同代表 清水裕二、殿平善彦
事務局 〒077-0032 北海道留萌市宮園町3-39-8 (三浦忠雄方)
FAX 0164-43-0128 <http://www.kaijiken.sakura.ne.jp>
ロゴデザイン 浅野由美子 写真 平田剛士

国際シンポジウム in オーストラリアに
アイヌとして参加したい！

ラポロアイヌネイション

クラウドファンディングに
どうぞ一緒にください！